

聖化

Japan Holiness Association

[発行] 日本聖化協力会

2016.4.25
No.59



『キリスト者の完全』を読む

日本基督教団ホーリネスの群 東調布教会 牧師 島隆三

過去数十年、EPAから次々ときよめに関する良書が出版され、それが今日JHAに引き継がれ、また、諸教団からも説教集その他が出版されてきました。が、きよめに関するこの一冊と言えはウエスレーの本書を挙げないわけにはいかないでしょう。

筆者の手もとには戦前の赤澤元造師の著名な翻訳から藤本満師の丁寧な注がついた翻訳(2006年)まで数種がありますが、日本聖書協会理事長の大宮溥師は「私はウエスレーの『キリスト者の完全』を翻訳して、そこにフロイト流の人間に対するペシミズム(悲観主義)を突き破る、聖霊によって回復された『神の像』としての人間が躍動しているのに感動した。これは、正統主義的な化石化した教会に対する活性化の道であると共に、社会のただ中で『地の塩・世の光』として生きる人間を生み出していく力であると感じたのである」と感想を述べておられます(『合同教会としての日本基督教団』)。今ひとり、生涯をウエスレー研究に捧げた山口徳夫師の翻訳はなかなか個性的ですが、その前文に「私は、赤澤元造師の『キリスト者の完全』を、おそらく十回ぐらいは読んだであろうが、初めのころは正直なところウエスレーが、単

なる作文を綴ったものぐらいにしか考えることができなかった。ところが、上掲の諸書(ウエスレーの日記、説教集他)を一通り素読し、かつまたウエスレーの伝記をひもとくに至って、自分が大鳥の志を知らない小雀に過ぎなかったことを知った」と記しておられます。

かく言う筆者も、初めはよく理解できず、反発を感じることも多々ありましたが、繰り返し読むうちに、この書に流れている積極的な信仰理解、人間理解に打たれ、襟を正されました。特に、藤本師の注を読むと、この書が生まれてきた背景も知ることができて、理解が一段と進んだように感じます。

日本のホーリネス運動では、当初から聖書学院の教科書として伝道者養成に用いられてきたと聞いていますが、どこまで本当に理解されたか、もしかしら表面的な理解に留まったのではないかととも思われます。本書を手掛かりとして、今の時代にきよめの信仰をどのように受け止め、また宣証していくかは私たちに課せられた宿題と言えるでしょう。神学校はもとより、諸教会でも折々にこの書を取り上げ、お互いの信仰理解を深めていきたいと願わされております。

もくじ

- 巻頭言メッセージ…………… p.1
- 30周年記念全国大会報告…………… p.6
- 創立30周年全国大会講演その1 …… p.2-3
- ライオン博士紹介、書籍の紹介 …… p.7
- 証し 雨の中、祈りを通してのお扱い … p.4-5
- 今年の聖化大会日程、編集後記…………… p.8

日本聖化協力会創立30周年記念全国大会 講演

日本における聖化運動の歴史

第1回 キリスト教伝来から松江バンドの形成まで

日本イエス・キリスト教団 香登教会牧師 工藤弘雄

はじめに

聖化の教理は、時に誤解や中傷を受けながらも、教会の歴史を貫いて保持されてきました。グレートハウスが言うように、用語や強調点の相違がそれぞれの時代の特徴づけられはしましたが、ホーリネスの真理がその光彩を失墜した時代は一つもありませんでした。それは、日本のキリスト教史においても言えることで、組織的な聖化運動であれ、宣教活動の動力として浸透する聖化運動であれ、聖化を抜きに日本の教会の歴史を見ることはできません。およそ福音そのものが聖化を内蔵している以上、きよき福音は時代の罪悪と厳しく対峙します。フランシスコ・ザビエルが福音を携えて日本に上陸したのは1549年でした。彼は激しく日本の三大罪悪と対決します。「日本人は、世界の造り主である全能の神の存在を忘れていた。日本人は男色の罪を犯す。婦人はほしいままに墮胎し、嬰兒を殺す」。この対決は本質的にかの日もこの日も少しも変わっていません。

日本の初期プロテスタントイズムと松江バンドの形成

「日米修好通商条約」第八条に基づき、「公け」に「一気」にプロテスタント宣教師たちが到来したのは1859年でした。時あたかも「キリスト教史上最も顕著な霊的運動」と言われた1858〜59年のリバイバルの火が欧米諸国に燃え上がっていました。日本の初期プロテスタントイズムはこの信仰復興運動と密接不離の関係にあったのです。果たせるかな日本のキリスト教は急成長を遂げ、1883年、全国基督教信徒大親睦会の来会者一同の信念は、「十年ならずして我が国は基督教国になるであろう」でした。ところがその「急成長期」が1890年代に入ると完全に停滞、「大沈滞期」に突入したのでした。要因は明らかに二つです。

1889年発令の天皇を中心とする国家神道に根ざす「大日本帝国憲法」及び翌1890年煥発の「教育勅語」という外側からのキリスト教圧迫と「新神学」と呼ばれる自由主義神学による内部的な純信仰への揺さぶりでした。B・F・バックストンの来日はその1890年（明治23年）と重なります。ところが、バックストンとそのスタッフらによる松江を中心とした山陰伝道

はそれまでの急成長を継続するかのようには前進しました。都田恒太郎によれば、日本の初期プロテスタントを急成長させた福音主義運動が、バックストン宣教により「油が注がれ燃え上がりされた」というのです。

バックストンらが松江伝道に参加したのは1891年4月。1892年末頃には早くも松江、米子地方に七つの教会設立。劇場でも積極的な伝道を展開。回心者たちは全き聖化の恵みに導かれ、宣教へと派遣。1893年4月、赤山住宅完成。ここで献身者たちの修養開始。1897年、パジェット・ウィルクス来日。初期の働きは年間平均40名の受洗者、1900年までに松江の教会だけで310人の受洗会員、付近一帯に新しい教会設立。毎年、春秋には松江において聖会開催。「松江バンド」は明らかに日本の聖化運動の濫觴といえます。

松江には全国から多くの修養生が参集しました。まず、日本において最初に聖化の信仰を標榜し、実践した「小さき群」を起こした者たちです。彼らは米国太平洋岸日本人教会のリバイバルの中で入信、献身した者たちで、や



昨年10月に開催された日本聖化協力会創立30周年記念全国大会、午後のパネル・ディスカッションにおいて、お二人の先生に講演をしていただきました。松沢力男先生の「日本聖化協力会のビジョン」、そして工藤弘雄先生の「日本における聖化運動の歴史」です。

講演に際して工藤先生はたいへん詳細な行き届いた資料をレジュメとして準備してくださいました。そこで、改めて日本での聖化運動の歴史をまとめていただくことにしました。3回に分けて連載いたします。今回は、キリスト教伝来から松江バンドの形成まで。第二回は、河邊貞吉、中田重治から日本伝道隊まで。第三回は、戦前、戦後のホーリネス運動です。

がて日本における聖化運動を推進するようになりま。河邊貞吉、笹尾鐵三郎、秋山由五郎、松野菊太郎、木田文治たちです。彼らを信仰に導いた人物が米国メソジスト教会のハリスでした。ハリスはかつて札幌バンドの若者たちを指導しています。帰国した河邊、笹尾、松野、木田らと御牧碩太郎、土肥修平、須永徳三郎らは信仰と祈りのグループ「小さき群」を起し、果敢に伝道しました。彼らはバックストン以前の日本における聖化運動の先駆者といえます。しかし、「小さき群」は後に神学、信仰、実践伝道に行き詰まり、笹尾、御牧、秋山らはバックストンの招きで松江に退修することになります。次に、松江参集組に同志社からの青年たちがいました。バックストンは熊本バンドの一人、宮川経輝や同志社の教授シドニー・ギューリックとも親交がありました。同志社には1885年リバイバルが起こりましたが、その後新神学により大きな打撃を受けていました。竹田俊造は大阪の泰西学館でバックストンに触れ、同志社の理科で学んでいた頃、セラピムのようなバックストンの礼拝と奉仕に捕らえられ松江

に走りま。同窓の三谷種吉、堀内文一、藤本寿作らも同様に松江に参集しました。その他に地元で回心し伝道者となった者たちに、永野武二郎、都田友治郎（恒太郎の父）、由木虎松（康の父）、奥田常三郎（耕天の父）、米田豊らがいました。さらに、中田重治や河邊もしばしばバックストンに招かれ、聖会や伝道会で奉仕をしています。中田が始めて笹尾に出会ったのも松江においてでした。山室軍平、石井十次など、赤山には入れ代わり立ち代わり来訪者が絶えませんでした。土肥修平は『焼跡の釘』の中で、「そのころバックストンの所には、聖公会の教役者50名、他派の教役者3、40名もあり、彼らの霊肉二つながらをバックストンは養い育てていたわけである」と記しています。渡辺善太はバックストン宣教の特質として、主と我との境目のある神との交わりに基づく健全な神秘性、聖書を通して神が語られる聖書信仰、歴史的な教会に根を下ろした超教派性をあげています。ユージン・ストックの『英国教会宣教会（C・M・S）の歴史』においては、バックストンの日本における聖化運動

の永続的祝福が評価されています。その後の「松江バンドの拡大」を河邊貞吉らのフリー・メソジストの流れ、中田重治らのホーリネスの流れ、そしてバックストン、ウイルクスらが直に起した日本伝道隊の流れと見る事ができるでしょう。その他松江からの巢立ちを見ると、秋山は長く松江に滞在後、聖書学院教授、巡回伝道者に、土肥は聖公会を経て巡回伝道者に、御牧は万国警官ミッションを経て『靈の糧』編集者となり文書における聖化運動を推進、永野、竹田、三谷、堀内はしばらく松江に残留、永野は日本聖公会松江教会牧師から満州伝道へ、竹田は米子、境港で伝道、都田、由木、奥田、木村宏一らは献身して東京の聖書学院へ、三谷は教会音楽に尽力後、キリスト教伝道文書発行、堀内は河邊の神学校を助け、後に日本伝道隊の働きの結果を「聖書教会」としてまとめた。松江における聖会運動は、関西の有馬修養会、関東の箱根聖会などに進展。バックストン、ウイルクス、笹尾、中田、河邊、竹田、御牧、秋山らが奉仕しました。

（次号に続きます）

「主は言われた。『その十人のためにわたしは滅ぼさな
い。』」(創世記一八・32)

「そこに居るのは誰や。ちょっと静かにしてくれんか。
キャンプの大事な時間やのに大きな声を出して……」。
遠くの方からの声で叱られた記憶がありました。しかし
私の頭の中は白い霧がかかっている、はっきりしない状
態でした。

1979年夏、大阪府能勢町にあった関西聖館を会場
にして、当時の教団内の有志教会による青年キャンプが
開かれました。いわゆる「教団紛争」が発生して以降、
教団の運営や諸活動が混乱の中で停滞し、教会間の交わ
りも衰退していきました。そのような中で手探りで開催
にこぎ着けたサマー・ユース・キャンプでした。

その前年、神学生だった私は、4つの教会の青年(部)
たちと共に何度も祈りながら、また先生方の祈りと協力
によってキャンプの準備を進めました。紛争中での開催
であり、批判や中傷や皮肉もありましたが、主の恵みと
祝福の内に88名の参加者が与えられ、とても感謝でした。
そして、決して驕っていませんでしたが、2年目に大
きな試練が待ち構えていました。

準備の段階で、キャンプ・ファイヤーの講師に、私の
父の名前(畑野基)が挙げられました。座長の私は、直
接には「不向きだ」とは言えませんでした。一番身近
かにいる者として気乗りはしませんでした。決定するま
でにかなり難渋を示し、決定後も気が進みませんでした。
さて、キャンプが始まりましたが、予期せぬ対応に追
われていました。天候も不順。おまけに小学校の校庭を

きよめの証し

雨の中、祈りを通してのお扱い



日本フリーメソジスト教団 岸之里教会 牧師

畑野 順一

借りていたのですが、無断使用だということが判明し、
運営上のいくつかの変更を迫られました。

夕方から小雨が降り出し、最悪の状況を覚悟しました。
ファイヤーは野外では無理だと思い、プログラムのリー
ダーの青年に相談をしました。すると、彼は「大丈夫です。
グラウンドでやります。みんな、1年間、ずうっとこの
時のために祈ってきましたから、やりましょう」と言い
残して、さっさと準備の方に向かいました。ファイヤー
係の青年も来ましたが、「グラウンドでやるみたいやで」
と気のない返事をしたことを憶えています。「そりゃあ
大変だ、準備を急がないと」と彼も小走りに出かけまし
た。その彼らの後ろ姿を見た時、主はこんなひねくれ者
の心にも火を付けられました。「彼らのためにすること
は、ひたすら祈ることだ」と決断をしました。

強い雨ではありませんでしたが雨は止まず、シートを
頭に被りながら、ファイヤーの周りを青年たちが囲みま
した。プログラムが始まる寸前に、リーダーの青年に、
一緒に祈ろうと声を掛けました。すると彼は力強く「祈
りましょう」と答えてくれました。校庭の隅にあるブラ
ンコに座りました。炎と青年たちが見える場所で、交互
に祈りました。プログラムは2時間でした。この時間、
とにかく天候が支えられて、若い人たちがメッセージに
応えられるようにと祈りました。

しかし、一生懸命に祈ってはいるのですが、雑念とい
うか、キャンプの運営上のことが心に浮かんできます。
今は祈りに専念することだと様々な思いを振り払い、さ
らに祈っていました。すると、今度は生活上のことで処

理していなかったことや、謝罪をしていない事柄などが次々と浮かんできました。思わず、「主よ、それらの細々としたことは、あとで祈って謝罪をしますから、今はとにかく天候を支えて雨を止めてください」と叫んでしまいました。しかし、それでも次々と雑多な罪が溢れて出てきて、もうどうすることもできない状態でした。「主よ、今は雨を止めてください」と泣きながら、しかし一つ一つ悔い改めて祈りました。この時に冒頭のお叱りがありました。「祈ってるのか」と言って去って行きました。大きな声だったので、別の人も来ました。

少し疲れを覚えてきた時、声が聞こえたように思いました。「お前の祈っている、その手はきよいのか」という問いかけでした。はっとしました。キャンプのためにと祈っているのに、肝心の説教者への思いの至らなさに気付かされました。本当に悔い改めました。何もかも白旗を掲げて完全降伏のような心の状態でした。

「主よ、祈りの手を挙げるのに相応しくない人間です。しかし、それでもお願いします。雨を止めてください。まだ1時間以上あります」と祈り、その後は「主よ、あと1時間」「あと50分」と時間を値切って祈りました。必死でした。まるで、アブラハムがソドムのための執り成しをしていた聖書の場面ようです。創世記一八章32節に、「アブラハムは言った。『主よ、どうかお怒りにならずに、もう一度だけ言わせてください。もしかすると、十人しかいないかもしれません。』主は言われた。『その十人のためにわたしは滅ぼさない。』とあります。背景は全く異なりますが、繰返し人数を値切っているアブラ



ハムに対する主の愛に心が満たされました。

この時、周囲の雰囲気何かが変わったような気がしました。ファイヤーの方を見つめました。頭の中がぼうっとしていたので、なかなか分かりませんでした。が、青年たちが何も被らずに座ってメッセージを聞いている姿に気付きました。「○○君、雨が止んでる。止んでる。……どういことや」と叫びました。雨を止めてくださいと祈っていたのに、止んだら「どういことや」とは、なんと不信仰な言葉だと自分でも呆れてしまいました。今思えば、祈る目標がなくなったことの虚脱感だったのでしょうか。「信じます。信仰のないわたしをお助け下さい」（マルコ九・24）は、不信仰者が信じますということの矛盾ですが、私にはこの信仰告白はよくわかります。主の恵みに相応しくない者だと実感しました。

キャンプは大変祝されました。招きに応じた青年たちが多くいたことはとても感謝でした。雨止みのお祈りも話題になりましたが、長い間私からは話しませんでした。それは雨を止められたのは主であって、祈りは私の個人的な格闘だったからです。その後も主が御霊によって何度も何度も取り扱って下さり、恵みの内に歩ませているのに、あまりにも悟りに鈍く、不信仰さばかりが目立っていますが、今後も主の言葉と働きに委ねていきたいと祈っています。

「しかし、神が光の中におられるように、わたしたちが光の中を歩むなら、互いに交わりを持ち、御子イエスの血によってあらゆる罪から清められるす。」

（一ヨハネ一・7）

直次郎 いまがわよしもと



©富無尽蔵

日本聖化協力会
創立30周年記念全国聖化大会 2015年10月12日、13日

聖化のリバイバルを求めて

創立記念全国大会は、インマヌエル中目黒教会を会場に行なわれました。北は北海道から南は九州に至るまで、全国に11ある聖化交友会から500名に迫る多くの方々が参加されました。

主講師のジョン・オズワルト博士は「変貌される生涯」と「全き愛」というテーマで聖会のメッセージを語ってくださいました。JHAにとって、新たな進発にふさわしい大会でした。



セミナーとパネルディスカッション

オズワルト博士のセミナーは、「イザヤ書におけるホーリネス」と題して語っていただきました。2日目午後、松沢力男先生と工藤弘雄先生の発題講演を受けて、参加者が小グループに分かれてディスカッションをし、それを全員で分かち合いました。

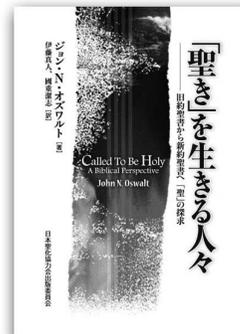
30周年記念大会講師の著書

「聖き」を生きる人々

ジョン・N・オズワルト著

旧約聖書を専門とする聖書学者の著者が、聖書全体が語る聖化について論じています。旧約聖書の聖霊論を、キリストを軸にまとめ、それに基づいて聖書の聖化を論じます。旧約・新約の聖霊論と、そこから語られる聖化のメッセージは恵みに満ちたものです。

定価(本体2500円+税)





講師紹介

ジョ・アン・ライアン博士プロフィール

Rev. Dr. Jo Anne Lyon

2016年の聖化大会に講師としてお迎えする



ジョアン・ライアン博士は、カウンセリングの分野で修士号を取り、歴史神学を学び、5つの大学から名誉博士号を与えられました。ウェスレアン教会で30年間牧会し、その傍ら、インディアナ・ウェスレアン大学やアズベリー神学校で「教会と社会」の課目で教鞭を取られました。World Hope という援助団体を創立し、30カ国に及ぶ救済活動と開発支援、社会的不正との戦いを指導されました。2008年、北米ウェスレアン教団初の女性総理に選出され、2016年6月までの任期を全うされる予定です。

ご主人であり牧師であるウエイン・ライアン師とともに、インディアナポリスに住み、4人のお子さんと10人のお孫さんに恵まれています。

新刊書紹介

JHA 創立 30 周年記念出版 第 3 巻 定価 (本体 1800 円 + 税)

聖化の説教 新約編 (聖化の説教 旧約編 I、II の続刊)

日本聖化協力会の先生方による説教集 新約聖書全体を 25 の説教で綴る



これまでに旧約聖書の聖化の説教を2巻に収めてお届けしました。旧約聖書の巻数と同じ39の説教を掲載しています。

JHA 創立30周年全国大会の記念として新約編を刊行しました。新約聖書の巻数27にはなりませんでしたが、25の説教に聖化の恵みを満載してお届けいたします。

執筆していただく先生方には、極力普段の礼拝説教で語るような語り口で書いていただきました。身構えずにありのまま、みことばの前に座して豊かな恵みと、聖霊のお取り扱いを受けたいという願いからです。一度にこれだけたくさん聖書のみことばに触れ、聖化の説教を味わうことができるのは、すばらしい特権ですし、ぜひたくなひとときです。ぜひ、熟読・味読してください。

『聖化の説教』旧約編 I、II 好評発売中です。新約編と共にお求めください



聖化の説教 旧約編 I
定価 (本体 1,500 円 + 税)

創世記からエステル記まで、聖書の英雄的な行動や惨めな失敗、信仰の輝きが、21の説教に収められています。



聖化の説教 旧約編 II
定価 (本体 1,500 円 + 税)

ヨブ記からマラキ書まで、知恵文学、詩歌、預言者たちによって語り継がれた聖化の恵みが、18の説教に収められました。

2016年に開催される聖化大会

大会名	期日	講師	会場
札幌 第9回北海道聖化大会	5/17~18	錦織 寛師	北海道クリスチャンC
宮城 第28回仙台聖化大会	9/19	古波津保秀師	日基 仙台青葉荘教会
山形 第21回山形聖化大会	9/22	世良田湧侍師	兄弟団 米沢教会
栃木 第20回栃木聖会	5/22	中島秀一師	日本ホーリネス 宇都宮教会
関東 第12回春の青年大会	5/29	田辺岩雄師	COG 川崎教会
第31回関東聖化大会	10/16	本間尊広師	東京FM 小金井教会
〃	10/17~18	J.ライアン師	OCCチャペル
遠州 第20回遠州聖化大会	2/14	村上宣道師	IGM 浜松教会
東海 第29回東海聖化大会	10/20	J.ライアン師	IGM 名古屋教会
〃	10/21	小林重昭師	日本イエス 名古屋教会
大阪 第70回Wに学ぶ会	5/24	植木英次師・昌恵師	救世軍セントラルホール
大阪 第71回Wに学ぶ会	10/21	J.ライアン師	ナザレン大阪桃谷教会
岡山 第8回備前聖化大会	10/23	J.ライアン師	日本イエス 香登教会
四国 第9回四国聖化大会	5/29	朝比奈悦也師	日本伝道隊 白鳥教会
九州 第27回九州聖化大会	10/25	J.ライアン師	兄弟団 福岡教会

* 聖化大会についての詳細は、日本聖化協会のホームページ、Facebook、Twitter をご覧ください。各地域の聖化交友会のご案内が掲載されています。http://jha.christ.gr.jp/

お近くの聖化交友会にご加入ください

聖化交友会には教団、教会、個人でお加わりいただけます。聖化の恵みを私たちの心に、そして教会に、さらにお住まいの地域に広げていきましょう。詳細は各地域の聖化交友会にお問い合わせください。

北海道聖化交友会／宮城聖化交友会／山形聖化交友会／栃木聖化交友会／関東聖化交友会／東海聖化交友会／ジョン・ウェスレーに学ぶ会／岡山聖化交友会／四国聖化交友会／九州聖化交友会

続々と、電子書籍化を進めます！

電子書籍化第一弾、「エマオの道で」を販売中です。Amazon Kindle ストアで検索してください。

365日の霊想 デニス・F・キンロー著

エマオの道で

世界でも屈指の説教者であるデニス・キンロー博士の著書です。365日の恵みが満載です。短い聖句が取り上げられ、歴史的なエピソードや著者の体験、聖書の物語など、霊想が綴られています。



定価3400円＋税

編集後記

聖化 59 号をお届けします。JHA が設立されて 30 年。昨年 10 月に創立記念全国大会を開催しました。紆余曲折がありました会場はインマヌエル中目黒教会に。これもまた神さまの導きだったと思います。

大会では日本福音連盟から小寺徹先生が、ケ

ズイック・コンベンションから峯野龍弘先生がご挨拶くださいました。すばらしい協力関係が築かれた画期的な出来事でした。奇しくも今年 6 月に日本福音連盟東京大会が同じ会場で開催されます。今回は逆に JHA が後援団体として名を連ねます。ここにも主の導きを感じます。(矢木良雄)

聖化 No.59 2016 年 4 月 25 日発行

発行 日本聖化協会 101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1 OCCビル 電話/Fax 03 (3293) 5130
E-mail kjha1985@aria.ocn.ne.jp URL http://jha.christ.gr.jp/ 編集担当：矢木良雄／錦織 寛